



特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2014 年度定時総会

日時：2014 年 4 月 21 日（月）14：00～17：00
会場：東京大学 山上会館 大会議室

開会

【挨拶】 14:00～14:05 会長：出口 光一郎

【議事】 14:05～14:40

第 1 号議案：新役員の選任

第 2 号議案：2013 年度事業報告および 2014 年度事業計画案

第 3 号議案：2013 年度収支決算報告および 2014 年度予算案

【中長期活動方針】 14:40～15:10

・横幹連合中長期活動ビジョンについて 副会長：鈴木 久敏

【木村賞表彰式】 15:10～15:50

・受賞者 大倉 典子氏（芝浦工業大学）、鈴木 和幸氏（電気通信大学）
（都合により、受賞者からの研究紹介は鈴木氏が先に行います）

閉会

特別講演 16:00～17:00

「Future Earth への日本の取組み」

春日 文子氏（日本学術会議 国際活動担当副会長）

■懇親会 17:10～18:30 山上会館 食堂（参加費 3,000 円）

（懇親会終了後 2014 年度横幹連合第 1 回理事会を開催します）

空白

1. 第1号議案：新役員選任 2014年度横幹連合役員（案）

役職		#	任期			氏名	所属	所属学会	推薦母体	
			初就任	始	終					
会長	再任(会長としては留任)	1	2003.4	2014.4(会長:2013.4)	～	2016.3(会長:2015.3)	出口 光一郎	東北大学	計測自動制御学会	理事
副会長	留任	2	2004.4	2013.4(副会長:2013.4)	～	2015.3(副会長:2015.3)	鈴木 久敏	筑波大学	日本オペレーションズ・リサーチ学会	推薦委員会
副会長	留任	3	2007.4	2013.4(副会長:2013.4)	～	2015.3(副会長:2015.3)	遠藤 薫	学習院大学	社会情報学会	学会
理事	留任	4	2013.4	2013.4	～	2015.3	有馬 昌宏	兵庫県立大学	経営情報学会	学会
理事	留任	5	2011.4	2013.4	～	2015.3	大場 允晶	日本大学	日本経営工学会	推薦委員会
理事	留任	6	2013.4	2013.4	～	2015.3	倉橋 節也	筑波大学	計測自動制御学会	推薦委員会
理事	留任	7	2013.4	2013.4	～	2015.3	中島 健一	神奈川大学	日本経営工学会	学会
理事	留任	8	2013.4	2013.4	～	2015.3	渚 勝	千葉大学	国際数理科学協会	学会
理事	留任	9	2009.4	2013.4	～	2015.3	船橋 誠壽	横幹連合	計測自動制御学会	理事
理事	留任	10	2011.4	2013.4	～	2015.3	松岡 由幸	慶応義塾大学	日本デザイン学会	学会
理事	留任	11	2013.4	2013.4	～	2015.3	水川 真	芝浦工業大学	日本ロボット学会	学会
理事	新任	12	2014.4	2014.4	～	2016.3	青柳 秀紀	筑波大学	日本生物工学会	学会
理事	再任(1年間)	13	2011.4	2014.4	～	2015.3	板倉 宏昭	香川大学	日本経営システム学会	学会
理事	新任	14	2014.4	2014.4	～	2016.3	岩崎 学	成蹊大学	応用統計学会	学会
理事	再任	15	2012.4	2014.4	～	2016.3	庄司 裕子	中央大学	日本感性工学会	学会
理事	新任	16	2014.4	2014.4	～	2016.3	清野 武寿	㈱東芝	研究・技術計画学会	学会
理事	再任(1年間)	17	2010.4	2014.4	～	2015.3	玉置 久	神戸大学	システム制御情報学会	学会
理事	新任	18	2014.4	2014.4	～	2016.3	中野 和司	電気通信大学	計測自動制御学会	学会
理事	新任	19	2014.4	2014.4	～	2016.3	平原 裕行	埼玉大学	可視化情報学会	学会
理事	新任	20	2014.4	2014.4	～	2016.3	松岡 猛	消費者庁	日本信頼性学会	学会
理事	新任	21	2014.4	2014.4	～	2016.3	水野 毅	埼玉大学	精密工学会	学会
理事	新任	22	2007.4	2014.4	～	2016.3	山崎 憲	日本大学	日本シミュレーション学会	学会
理事	再任	23	2012.4	2014.4	～	2016.3	六川 修一	東京大学	日本リモートセンシング学会	学会
監事	留任	1	2009.4	2013.4	～	2015.3	田村 義保	統計数理研究所	日本統計学会	推薦委員会
監事	留任	2	2005.4	2013.4	～	2015.3	安岡 善文	情報・システム研究機構	日本リモートセンシング学会	推薦委員会

注：初就任時期は任意団体の時期を含む

名誉会長		1		2008.4	～		吉川 弘之	(独)科学技術振興機構		
顧問		1		2013.4	～		木村 英紀	(独)科学技術振興機構		

2014年度横幹連合新役員候補の略歴

新役員候補	略歴
理事	
青柳 秀紀	1993年 筑波大学 大学院 博士課程修了 博士(農学) 1993年～ 筑波大学 応用生物化学系 助手、講師を歴任 2000年～ 文部省長期在外研究員(カナダ、トロント大学、2001年まで) 2003年～ 筑波大学 大学院生命環境科学研究科 助教授、准教授を歴任 2011年～ 筑波大学 生命環境系 教授 [専門] 生物化学工学、細胞培養工学、細胞機能開発工学 [所属学会] 日本生物工学会
岩崎 学	1977年 東京理科大学 大学院理学研究科(数学専攻) 修士課程修了 理学博士 1977年～ 茨城大学 工学部情報工学科 助手 1984年～ 防衛大学校 数学物理学教室 講師、助教授を歴任 1993年～ 成蹊大学 工学部経営工学科 助教授 1997年～ 成蹊大学 工学部経営工学科 教授 2005年～ 成蹊大学 理工学部情報科学科 教授 [専門] 統計的データ分析 [所属学会] 応用統計学会、日本統計学会
清野 武寿	1987年 慶應義塾大学 大学院理工学研究科(機械工学専攻) 修士課程修了 1987年～ (株)東芝 生産技術研究所(現 生産技術センター)にて精密機器研究開発に従事 2005年 東京大学総合文化研究科にて博士(学術)取得 2007年～ (株)東芝 イノベーション推進本部 2008年～ 同 生産技術センター 部品技術研究センター長 2012年～ 同 生産技術センター 生産技術企画部長 2014年～ 同 経営監査部 [専門] 製品開発における設計生産連携、生産技術におけるIT活用、製造性を考慮した設計マネジメント、生産技術現場での実践的技術マネジメント [所属学会] 研究・技術計画学会
中野 和司	1980年 九州大学 大学院工学研究科 電気工学専攻 博士課程単位取得終了退学(1982年 工学博士) 1980年～ 九州大学 工学部 助手 1986年～ 福岡工業大学 工学部 助教授、教授(1992年～)を歴任 2010年～ 電気通信大学 電気通信学部 教授、同大学院 情報理工学研究科 教授(2010年～) 2011年～ 同大学院 情報理工学研究科 教育研究評議員 2014年～ 同 理事・副学長(教育戦略担当) [専門] 制御工学 [所属学会] 計測自動制御学会
平原 裕行	1986年 (株)東芝入社(1987年退社) 1987年 埼玉大学 工学部 助手、講師(1988年～)、助教授(1991年～)、同大学院理工学研究科 助教授(2006年～)、准教授(2007年～)を歴任 2008年 埼玉大学 大学院理工学研究科 教授 [専門] 流体工学 [所属学会] 可視化情報学会
松岡 猛	1977年 運輸省 船舶技術研究所 研究官、システム技術部長(2000年～)を歴任 2002年～ 独立行政法人 海上技術安全研究所 海上安全領域長 2006年～ 宇都宮大学 大学院工学研究科 機械知能工学専攻 教授、同 客員教授(2011

	<p>年～2012年)</p> <p>現在 消費者庁 消費者安全調査委員会 委員長代理、工学等事故調査部会長</p> <p>[専門] 安全工学、システム工学、信頼性工学</p> <p>[所属学会] 日本信頼性学会</p>
水野 毅	<p>1980年 東京大学 大学院工学系研究科 修士課程修了</p> <p>1980年～ 東京大学 生産技術研究所 助手</p> <p>1985年～ 職業訓練大学校 機械科 講師</p> <p>1988年～ 埼玉大学 工学部 機械工学科 助教授</p> <p>2000年～ 埼玉大学 工学部 機械工学科 教授</p> <p>[専門] 機構制御、ロボット・メカトロニクス</p> <p>[所属学会] 精密工学会</p>
山崎 憲	<p>1972年 日本大学 大学院生産工学研究科 電気工学科専攻 修士課程修了</p> <p>1972年～ 日本大学 生産工学部 副手</p> <p>1989年～ 英国 University of Southampton 招聘客員研究員 (1992年まで)</p> <p>1995年～ 日本大学 生産工学部 電気電子工学科 教授</p> <p>[専門] 音の場の数値シミュレーション</p> <p>[所属学会] 日本シミュレーション学会</p>

2. 第2号議案:2013(平成25)年度事業報告および2014(平成26)年度事業計画案

2-1. 事業報告および事業計画案

(A) 2013(平成25)年度事業報告

[1] 2013(平成25)年度の概況

横幹連合は、2013年4月をもって、設立10周年を迎えた。あらためて、横幹連合の設立の趣旨をご理解いただき、たゆみないご指導とご支援を賜って、これまでの活動を支えていただいた方々に感謝の意を表したい。10年の節目を迎えて、横幹連合はこれまでの理念の主張から実践へと大きく転換してゆかねばならないとの認識の下、次の10年に向かっての中長期活動ビジョンの立案を進めると同時に、関連機関との連携を深めるための横幹会議を新設してその開催を行う等、新たな活動の出発点づくりに努めた年であった。

基盤的な学会活動である第5回横幹連合コンファレンスは、香川大学幸町北キャンパス(香川県高松市)で開催し、238名の参加者を得て139件の講演論文の発表があり、参加者数、発表数とも過去最高を記録した。また、10周年を記念して、パネル討論、基調講演、記念講演等の全体会議を開催した。これらを通じて、横幹科学技術に関わる研究者・実務家の交流を深めると同時に今後の展開について議論することができた。調査研究会については4つのグループが横幹知の蓄積とその具体化に努力した。

横幹技術協議会とは、技術フォーラムの開催に加えて、協議会会員企業が共通的にもつ課題について意見交換を行う場として横幹産学懇談会を新たに設けて、産学の相互啓発に努めた。会誌、ホームページを通じて幅広く社会とのコミュニケーションを行った。

会員の異動としては、日本行動計量学会および日本生産管理学会が退会した。これにより、本日現在の会員学会数は37学会である。一方で、横幹連合の新たな活動方向に関心を寄せていただける学会との出会いも生まれており、今後、加盟を得た活動へと発展することが期待されることである。財政面では、外部資金の獲得に努力したが実現に至らなかったものの、コンファレンス、会誌等の事業努力により、これまでの蓄積を減耗することは避けることができた。

2013(平成25)年度の主な活動は以下の通りである。

- (1) 10周年記念事業の推進
 - 中長期活動ビジョンの立案、横幹連合10年史編纂、コンファレンス記念行事、会誌「横幹」特別企画掲載
- (2) 第5回横幹連合コンファレンスの開催(2013年12月)
- (3) 第5回横幹連合総合シンポジウムの準備
- (4) 調査研究活動の推進
 - ・横幹科学技術の研究推進に係る基本的な枠組みの策定、学術会議「科学・夢ロードマップ」への提出
 - ・調査研究会活動の推進
 - ①横断型人材育成推進調査研究会(2012年4月～2014年3月)
 - ②リスクマネジメントと経営高度化調査研究会(2012年4月～2014年3月)
 - ③人工社会調査研究会(2012年4月～2014年3月)
 - ④システム統合学調査研究会(2013年7月～2015年6月)
- (5) 2013年度木村賞の選定
- (6) 関連機関との連携
 - ・横幹会議の開催:横幹連合が連携すべき重要機関と会員学会長とがトップレベルで意見交換をする場として横幹会議を設定し、これを開催(第1回～第2回)
 - ・横幹技術フォーラムの開催(第38回～第40回)
 - ・横幹産学懇談会の開催(第1回～第4回)
- (7) 会誌「横幹」の刊行 第7巻第1号(2013年4月)、第7巻第2号(2013年10月)
- (8) 横幹連合ニュースレター No.33～No.36の発行

[2] 10周年記念事業の推進

- ・中長期活動ビジョンの立案:企画・事業委員会にタスクフォースを設定し、これまでの横幹連合の活動を踏まえて、横幹知の実践、若手研究者の育成、財政基盤の安定化について基本的な枠組みを設定。
- ・横幹連合10年史の編纂:2012年度企画・事業委員会でのタスクフォース成果である10年史総説を中心に、

政府提言・プロジェクト、産学連携、研究会合・調査研究会、会誌広報、年表、歴代役員等の資料をまとめた文書を作成しホームページで公開。

- ・コンファレンス記念行事：第5回横幹コンファレンスで10周年記念行事として、全体会議において、パネル討論、基調講演、記念講演を実施。
- ・会誌「横幹」特別企画「横幹連合：10周年を迎えて」：横幹連合をご支援いただいた総合科学技術会議常勤議員経験者、歴代会長他から寄書をいただき掲載。

[3] 第5回横幹連合コンファレンスの開催

- ・日程・場所：2013年12月21日（土）～23日（月）・香川大学 幸町北キャンパス
- ・メインテーマ：「異分野の新結合と知の創造」～うどん県発・地域ブランド創造による地域活性化～
- ・共催：横断型基幹科学技術推進協議会、香川大学、後援：(財)高松観光コンベンションビューロー
- ・プログラム
 - ①10周年記念プログラム
 - 記念講演 吉川弘之氏（科学技術振興機構研究開発戦略センター）「領域の統合」
 - 基調講演 獅山有邦氏（名古屋大学、前四国経済産業局長）「地域の現場から横断型基幹技術の新展開に期待する」
 - パネルディスカッション「地域を越える地域ブランド～地域ブランド創造についての課題と戦略～」
 - ②セッション（40セッション、139発表）
 - 特別企画セッション（3セッション、13発表）：産業社会を牽引する横幹人材の育成、システム構築型イノベーション、企業向けITサービス構築実践事例
 - 企画セッション（20セッション、77発表）：地域力の創造・再生（3セッション）、リスクマネジメントと経営高度化（5セッション）、グリーンイノベーション（2セッション）、ライフイノベーション、システム科学フロンティア（6セッション）、ヒューマンインタフェース/バーチャルリアリティの各領域における新結合・創造、新結合・創造のための人材育成
 - 一般講演セッション（17セッション、49発表）
- ・エクスカージョン うどん打ち体験コース、直島コース
- ・実行委員長 板倉宏昭（香川大学）、プログラム委員長 鈴木久敏（元筑波大）
- ・参加登録数：238名
- ・会員学会会長懇談会を実施、吉川弘之名誉会長からの挨拶、出口会長からの横幹現況紹介、企業向けの会員学会情報提供施策についての検討等を行った。

[4] 第5回横幹連合総合シンポジウムの準備

- ・日程・場所：2014年11月29日（土）～30日（日）・東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）
- ・メインテーマ：日本発：“モノ”・“コト”・文化の新結合
- ・実行委員長：六川修一（東京大学）

[5] 2013年度木村賞表彰

- ・第5回横幹連合コンファレンスでの発表から次の2件を2014年度定時総会にて表彰するとした。
 - ①大倉典子氏（芝浦工業大学）
 - 発表論文：大倉典子「感性価値としての「かわいい」」
 - ②鈴木和幸氏（電気通信大学）
 - 発表論文：鈴木和幸「リスクモードに着目した分野横断的リスク情報システム科学」

[6] 関連機関との連携

- ・横幹会議
 - ①第1回横幹会議
 - 日程・場所：2013年8月2日・デスカット東京（日本ビル1階会議室）
 - 出席者：横幹技術協会会員企業 4社7名、会員学会 18学会 20名、横幹役員 10名
 - 内容：企業ニーズ、および、学会シーズの紹介と意見交換
 - ②第2回横幹会議
 - 日程・場所：2013年12月13日・中央合同庁舎12階会議室

出席者：総合科学技術会議 原山優子常勤議員、久間和生常勤議員、
内閣府政策統括官付 安間敏雄参事官、
会員学会 24 学会 27 名、横幹役員 10 名

内容：総合科学技術会議の政策取組み動向の紹介と横幹科学技術の寄与に関する意見交換

・横幹技術フォーラムの開催

- ①第 38 回 サービス学の成立～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～（2013 年 7 月 8 日、文京シビックセンター）
- ②第 39 回 社会システム論で社会を読み解く（2013 年 10 月 23 日、日本大学 経済学部 講堂）
- ③第 40 回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション（2014 年 1 月 24 日、日本大学 経済学部 講堂）

・横幹産学懇談会の開催

- ①第 1 回 ソフト社会インフラに係る企業ニーズ－水インフラシステムビジネスの動向（2013 年 7 月 3 日、日本大学 経済学部）、話題提供 上田新次郎氏（㈱日立製作所）
- ②第 2 回 インフラの構造－通信網の信頼性設計・管理について（2013 年 9 月 10 日、日本大学 経済学部）、話題提供 渡邊均氏（東京理科大学）
- ③第 3 回 ソフト社会インフラ－インフラの実課題を吟味する（2013 年 11 月 18 日、日本大学 経済学部）、話題提供 高橋信補氏（㈱日立製作所）、谷川民生氏（(独) 産業技術総合研究所）
- ④第 4 回 人口減少社会のインフラ再編（2014 年 2 月 19 日、日本大学 経済学部）、話題提供 中川雅之氏（日本大学）

(B) 2014（平成 26）年度事業計画案

[1] 2014（平成 26）年度の方針

2013 年度で、中長期活動ビジョンの骨子を策定し、また、横幹科学技術の研究構造を描いた。2014 年度は、これらの構想に基づいて、具体的な行動に移すときと位置付けられる。これまで、横幹理念の構築から実践への展開期との認識の下、課題解決活動、震災克服調査研究活動を進めてきたが、これらを端緒として、次の 10 年に向けて描いた姿を念頭に、具体的な取組みを進める必要がある。

社会情勢が、益々、横幹理念の実践を求めていることを認識し、横幹会議を通じて外部との連携を深めつつ、単独の学会では解決が難しい課題に対する研究プロジェクトに積極的に取組んで、社会への貢献と学術の深化に努めると同時に、取組みの体制自体を新たにしたい。具体的には以下の事項を推進する。

(1) 調査研究事業

中長期活動ビジョンを定立して具体的な行動計画へと展開する。第 5 回横幹連合総合シンポジウムを開催して価値創造につながるコトづくりの議論を行うと同時に、学術・国際委員会を中心に立案した横幹科学技術の研究推進の基本的な枠組みに基づいて、社会要請の高いシステム統合等の調査研究会の展開を図る。これらの推進的的確化・迅速化のために、横幹会議を通じて産官とのトップレベルの対話に努める。

(2) プロジェクト事業

社会的課題に関する国家プロジェクト等への積極的参画、産業界の横幹的課題解決のための産学連携プロジェクトを推進する。また、そのインキュベーションとして、継続的に横幹産学懇談会を開催する。

(3) 普及啓蒙事業

会誌「横幹」の発行、横幹技術フォーラムの開催を行う。

(4) 広報事業

ホームページ、ニュースレター等による広報を行う。会員学会会員とのコンタクトの強化に努めると同時に、会員学会活動の企業への横断的な情報提供の場づくりにも努力する。

(5) その他

持続可能な事業体制への転換を目指す。このために、受益者に関する見直しを行い、新たな社会との関係づくりを構想する。

[2] 2014（平成 26）年度事業計画 （次ページに記載）

2014(平成 26)年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者の 範囲及び 予定人数
調査研究 事業(1)	<中長期活動ビジョンの定立と行動展開> 2013 年度に検討した中長期活動ビジョンの枠組みを定立し、これを具体的な行動として展開する。	通年	学・産・官
調査研究 事業(2)	<第 5 回横幹連合総合シンポジウム> 学界・産業界から広く参加を募り、横幹理念の実践を目指して、価値創造につながるコトづくりに係る知の交流をはかり、新たな実践活動の第一歩とする。併せて、2015 年度の横幹連合コンファレンスを準備する。	11 月	学界・産業界から広く参加を募る (130 名)
調査研究 事業(3)	<学術・国際委員会> 2013 年度に策定した横幹科学技術の研究推進に係る基本的な枠組みに基づき調査研究会への展開をはかる。とくに、システム統合等の社会要請の高い課題への取組みを重視する。加えて、横断性を強化する観点から、人文社会科学系の学会との連携の拡大について努力する。	通年	会員学会を中心とした 学界
調査研究 事業(4)	<調査研究会> 横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行う。成果は報告書・フォーラム等で一般に公表し、場合によっては、プロジェクト事業へと展開する。	通年	会員学会を中心とした 学界
調査研究 事業(5)	<横幹会議の定着と関連機関との連携深耕> 産官とのトップ会談の場である横幹会議の定着に努力する。並行して、継続的に科学技術振興機構、統数研、産総研と連携する。	通年	学・官・産
プロジェ クト事業 (1)	<社会プロジェクト活動> 社会的課題に関する国家プロジェクト等を受託・推進し、横幹科学技術の有用性を立証するとともに、今後の取組み課題を抽出する。	通年	会員学会を中心とした 学界
プロジェ クト事業 (2)	<産業プロジェクト活動:インキュベーションとプロジェクト化> 横幹産学懇談会を通じて産業界との緩やかな対話を継続して行い、産業界が求める「実問題」に応える横幹科学技術を明らかにし、解決活動への結び付けを行う。	通年	産・学
普及啓蒙 事業(1)	<会誌「横幹」の発行> 横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深める会誌を刊行する。	4 月 10 月	一般者
普及啓蒙 事業(2)	<横幹技術フォーラムの開催> 主に産業界を対象に、横幹科学技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者が解説する。また、産学の対話の場としても活用する。	隔月	産業界の中 核技術者
広報事業 (1)	<ホームページ> ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。企業に向けての会員学会の横断的な情報提供の場づくりに努力する。	通年	会員学会・ 一般者
広報事業 (2)	<パンフレット・ニュースレター等による広報> 横幹連合の活動、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。会員学会会員とのコンタクト強化に努める。さらに、これまでの蓄積を素材とする出版についても検討する。	通年	学界・ 会員学会・ 一般者
その他	<事業運営の体質強化・転換> 財務状況の抜本的な改善策を立案し、持続可能な事業体制への転換を目指す。このために、受益者に関する見直しを行い、新たな社会との関係づくりを構想する。	通年	会員学会・ 横幹連合 支援者

2-2 常置委員会の報告及び計画

2-2-1 企画・事業委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長（理事）	鈴木 久敏	（元筑波大学、日本 OR 学会、日本経営工学会）
副委員長（理事）	長田 洋	（東京工業大学、日本MOT学会）
幹事（理事）	木野 泰伸	（筑波大学、プロジェクトマネジメント学会）
委員（理事）	板倉 宏昭	（香川大学、日本経営システム学会）
委員（理事）	本多 敏	（慶應義塾大学、計測自動制御学会）
委員（理事）	船橋 誠壽	（横幹連合、計測自動制御学会）
委員（理事）	有馬 昌宏	（兵庫県立大学、経営情報学会）
委員（理事）	庄司 裕子	（中央大学、感性工学会）
委員（理事）	北村 佳之	（日本銀行、日本統計学会）
委員	山本 栄	（東京理科大学、日本人間工学会）
委員	山本 修一郎	（名古屋大学、プロジェクトマネジメント学会）
委員	木村 忠正	（電気通信大学、日本信頼性学会）
委員	土谷 隆	（政策科学大学院大学、日本統計学会）
委員	神徳 徹雄	（(独)産業技術総合研究所、計測自動制御学会）
委員	原 辰次	（東京大学、計測自動制御学会）
委員	村松 健児	（東海大学、日本生産管理学会）
委員	梶本 裕之	（電気通信大学、日本バーチャルリアリティ学会）
委員	平井 成興	（千葉工業大学、日本ロボット学会）

企画・事業委員会の主課題は、(1)所掌業務:シンポジウム、コンファレンス、官公庁・研究機関等の連携など、(2)今後とりあげるべき課題の明確化と長期方針の立案である。これらのために、隔月に委員会を開催し、以下のように取り組んだ。

1. 第5回横幹連合コンファレンスの企画・立案・実施

2013年12月21日(土)～23日(月)までの3日間にわたり香川大学で行われた第5回横幹連合コンファレンスの企画セッション等の立案、実行計画の策定を行い、板倉理事を実行委員長として開催した。オーガナイズドセッションは23セッション90件、一般セッションは17セッション49件の、合計37セッション139件の講演論文が発表され、238名が参加した。発表件数、参加者数とも最大規模のものとなった。また、新たな試みとしてコンファレンス会期中にエクスカージョンを取り入れ、好評であった。

2. 第5回横幹連合総合シンポジウムの企画・立案

2014年11月29日(土)、30日(日)に東京大学本郷キャンパスで六川理事を実行委員長として開催する計画を立案し、その準備に着手した。

3. 予備検討WGの設置について

隔月に開催する企画・事業委員会に十分に推敲された提案が出るように、委員会の下に6つの予備検討WG(5回横幹連合コンファレンスWG、第5回横幹連合総合シンポジウムWG、横幹会議WG、中長期活動ビジョンWG、新企画・人材育成WG、委員長補佐WG)を設置して、各委員をWGに割り振った。予備検討された提案が委員会に答申され、委員会での議論に付された。

4. 中長期ビジョンについて

横幹連合創立10年の歩みを踏まえて、これからの10年を見据えた活動ビジョンを検討し、総会への提案資料をまとめた。

5. 会員学会年次大会発表プログラムの電子化について

横幹連合の発展のために、実施するのが適当であるような新企画を3つ立案し、その中で横幹協議会側から要望が高かった会員学会の最新の研究動向を知りたいとの意見を受け、会員学会の年次大会発表プログラムを電子的に公開し、検索エンジンにて検索可能とする企画を立案した。2013年12月の第5回横幹連合コンファレンスの際に同時開催された会員学会長懇談会で説明し、賛同を得て翌年4月から実施に移すことになった。実施は広報・出版委員会の担当となった。

6. 横幹会議について

会員学会が横幹連合に結集する意義を高めるため、新たな試みとして、会員学会会長と産業界や官公庁のトップとの自由な意見交換の場を設定することにした。2013年8月2日(金)に産業界側との対話、12月13日(金)に総合科学技術会議常勤議員との対話を実施した。

(B) 2014年度の事業計画

引き続き、シンポジウム、コンファレンス開催に関することを所掌する。また、新企画・人材育成についても引き続き取り組む。

1. 中長期活動ビジョンの行動計画への展開
中長期活動ビジョンを具体化する行動計画の立案と実行を行う。
2. 第5回横幹連合総合シンポジウムの開催
シンポジウム開催に必要な諸事項の準備と実施を行う。
3. 第6回横幹連合コンファレンスの開催
コンファレンス開催に必要な諸事項への協力を行う。
4. 第3回、第4回横幹会議の開催
横幹会議開催に必要な諸事項の準備と実施を行う。

2-2-2 総務・会員委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長(理事)	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)
副委員長		※上野元治氏死去により現在空席
幹事(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員(理事)	中島 健一	(神奈川大学、日本経営工学会)
委員(理事)	渚 勝	(千葉大学、国際数理科学協会)

1. 予算健全化施策の立案・推進

予算健全化のために、事業経費の見直しを行った。会誌「横幹」の出版費用が定常的に大きな赤字を生んでいることを踏まえ、会誌の電子化に向けての提案を理事会に対して行った。今年度だけに限っては、コンファレンスの黒字により収支のバランスが取れたが、長期的には引き続き予算健全化のために努力する必要がある。

2. 会員学会の増強

2013年12月には総合科学技術会議との意見交換会が開催されたが、多数の学会から会長(あるいは会長代理)が参加し、会長同士で意見交換する好機会となった。同月の横幹コンファレンスでも会長懇談会を開催し、横幹連合の果たすべき役割について議論した。横幹設立時は延べ6万人会員であったが、今では5万人弱であり、各学会はそれぞれ危機感を持っている。会員減を含め共通の危機意識とその対策について情報共有する等の活動が横幹に望まれていると考えられ、期待に応える活動をしてゆく必要がある。文系学会への参加呼びかけも積極的に推進すべき課題として方策を検討した。

(B) 2014年度の事業計画

1. 予算健全化施策の立案・推進

予算健全化のために、引き続き、具体的な施策立案と推進に注力する。この一環として、受益者を見直し、新しい社会との関係づくりについて検討する。

2. 会員学会の増強

現在の参加学会間で情報共有や意見交換を積極的に行い、学会同士で情報共有や連携を行える場としての横幹連合の意義をより明確化するための取組を推進する。また、文系学会を含め新規の参加呼びかけを積極的に推進する。

2-2-3 学術・国際委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長 (理事)	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
副委員長 (理事)	六川 修一	(東京大学、日本リモートセンシング学会)
委員 (理事)	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員 (理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員 (理事)	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員 (理事)	水川 眞	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)
委員 (理事)	有馬 昌宏	(兵庫県立大学、経営情報学会)
委員	大久保寛基	(東京都市大学、日本経営工学会)
委員	櫻井 茂明	(東芝ソリューション(株)、日本知能情報ファジィ学会)
委員	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)

本委員会の使命として、横幹科学技術の研究推進に係る基本的な枠組み作りを行いこれを調査研究会へと展開をはかること、とくに、システム統合等の社会要請の高い課題への取組みを重視することを設定し、以下の活動を行った。

1. 学術・国際委員会の開催

- ・第1回学術・国際委員会 2013年6月11日17時-19時、学習院大学
議題 委員会の2013年度活動検討、新規調査研究会「システム統合学」設置検討
- ・第2回学術・国際委員会 2013年8月21日13時30分-17時、学習院大学
議題 ロードマップに関する取組み検討

2. 横幹科学技術の基本的な枠組み作り

横幹科学技術のロードマップとして、現時点における多様なスマート要素技術が、2020年までには「スマートシティ」という総合的な環境において文理協力的に統合され、さらに2030年までには文理融合的相互連携によってより全体的な「スマート社会」へと発展し、2040年の段階では「価値共創する進化型社会」を達成することをめざすことを構想した。

さらに、これらの活動は、①リスクに負けないレジリエントな社会の実現、②多様性を活力とし、地球世界に貢献する社会の実現、③弱者に寄りそい公正性を追求する社会的公共性の再構築の3つの軸で展開するとした。この結果は、日本学術会議が集めている科学・夢ロードマップに提出した。

3. 調査研究会の立上げ

上記と並行して、「システム統合学調査研究会（主査：遠藤薫、期間：2013年7月～2015年6月）」を立ち上げ、これを推進した。具体事象の検討の場として、産学連携委員会と共同して、横幹産学懇談会を設置し、4回の会合をもった。

4. その他

横幹連合としての国際誌をもつことの意義、可能性について検討した。

(B) 2014年度の事業計画

2013年度に立案した横幹科学技術の枠組みをベースに、以下を行う。

1. 調査研究会の推進はもとより、新調査研究会の立上げに努める
2. 文系学会との関係づくりに関し、シンポジウムなどをビークルとして試行する
3. 国際発信の可能性について検討する

2-2-4 産学連携委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長（理事）	大場 允晶	（日本大学、日本経営工学会）
副委員長（理事）	水川 眞	（芝浦工業大学、日本ロボット学会）
副委員長（理事）	倉橋 節也	（筑波大学、計測自動制御学会）
委員（理事）	船橋 誠壽	（横幹連合、計測自動制御学会）
委員（理事）	上野 元治	（財団法人未来工学研究所、研究・技術計画学会）
委員（理事）	岸野 文郎	（関西学院大学、日本バーチャルリアリティ学会）
委員（理事）	中島 健一	（神奈川大学、日本経営工学会）
委員（協議会監事）	平井 成興	（千葉工業大学、日本ロボット学会）
委員	中野 一夫	（株式会社構造計画研究所、スケジューリング学会）
委員	尾形 勅	（パナソニック電工ネットソリューションズ株式会社）
委員	谷川 民生	（（独）産業技術総合研究所、日本ロボット学会）
委員	櫻井 成一朗	（明治学院大学、日本社会情報学会）
委員	飯島 俊文	（Q&T マネジメント研究所、MOT 学会）
委員	椿 茂実	（株式会社クエスト、経営情報学会）
委員	藤井 享	（株式会社日立製作所、日本情報経営学会）
委員	渡邊 均	（東京理科大学、日本信頼性学会）
委員	檜崎 博司	（株式会社神戸製鋼所、システム制御情報学会）

知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムを企画・実行する。また、2013年度よりソフト社会インフラをベースに横幹産学懇談会を協議会と共同で、特に水インフラを企業ニーズとして取り上げ、具体的な話題提供から懇談する機会を設ける。さらに、必要に応じて横幹コンファレンスやシンポジウムでの特別セッションの企画・実行なども行う。

1. 委員会開催

2013年度は下記を開催した。

第1回 平成25年5月21日(火)15時半-17時 日本大学経済学部本館2階 中会議室2

議題：2013年度活動方針、横幹協議会との連携状況、横幹技術フォーラムの検討、他

第2回 平成25年7月23日(火)15時半-17時半 日本大学経済学部本館2階 中会議室2

議題：横幹産学懇談会の設置、横幹技術フォーラムの検討、他

- 第3回 平成25年9月27日(金)15時半-17時半 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
 議題：横幹産学懇談会、横幹技術フォーラムの検討、他
- 第4回 平成25年11月18日(月)16:15-17:00 日本大学経済学部本館2階 中会議室1
 議題：横幹産学懇談会、横幹技術フォーラムの検討、他
- 第5回 平成26年1月28日(火)16時-18時 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
 議題：横幹産学懇談会、横幹技術フォーラムの検討、他
- 第6回 平成26年3月28日(金)15:30-17:30 日本大学経済学部本館2階 中会議室2
 議題：次年度活動方針の検討、横幹技術フォーラムの検討、他

2. H25年度開催横幹技術フォーラム概要

第38回 サービス学の成立～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～

日時：2013年7月8日(月)13:00-17:00

場所：文京シビックセンター スカイホール26階

司会：新井 民夫(芝浦工業大学 教授)

講演1 サービス学として学会を創る

新井 民夫(芝浦工業大学 教授)

講演2 サービス科学の基盤を構築する

澤谷 由里子(JST、早稲田大学 教授)

講演3 サービス研究の方法論を追及する

竹中 毅(産業技術総合研究所)

講演4 サービス学における研究動向を観る

戸谷 圭子(同志社大学 教授)

第39回 社会システム論で社会を読み解く

日時：2013年10月23日(水)13:00-16:50

会場：日本大学 経済学部 7号館 2階講堂(JR水道橋)

司会：櫻井 成一朗(横幹連合産学連携委員 明治学院大学 教授)

講演1 組織活性化の条件—人と組織のエンパワーメント

今田 高俊(東京工業大学 教授)

講演2 友敵のコードが生み出す政治的システム

中井 豊(芝浦工業大学 教授)

講演3 社会システム論から<都市>を考える～東京・上海・ディズニーランド～

遠藤 薫(学習院大学 教授)

第40回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション

日時：2014年1月24日(金)13:00-17:05

場所：日本大学 経済学部 7号館 2階講堂(JR水道橋)

司会：出口 弘(東京工業大学 教授)

講演1 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション

出口 弘(東京工業大学 教授)

講演2 社会シミュレーションの情報技術

喜多 一(京都大学 教授)

講演3 社会・経済・ビジネスのためのシミュレーション：ゲーミングからのアプローチ

田名部 元成(横浜国立大学 教授)

3. H25年度開催横幹産学懇談会概要

横幹技術協議会との連携活動として、2013年度より開始。

第1回 「ソフト社会インフラ」

日 時：2013年7月3日 10時-12時

会 場：日本大学 経済学部 本館 2F 中会議室 2

話題提供者：上田 新次郎（㈱日立製作所インフラシステム社技術最高顧問）

出席者：話題提供者+横幹連合・横幹技術協議会メンバー11名

話題：ソフト社会インフラに係る企業ニーズ-水インフラシステムビジネスの動向-

各論：ソフト社会インフラへの取組みの背景～日本のインフラシステムの競争力～水インフラシステムビジネスの動向～インフラシステムビジネスの課題～社会システム視点の重要性～国内問題への対応-国土強靱化

第2回 「ソフト社会インフラ」

日 時：2013年9月10日 15時-17時

会 場：日本大学 経済学部 本館 2F 中会議室 2

話題提供者：渡邊 均（東京理科大学工学部経営工学科教授）

出席者：話題提供者+横幹連合・横幹技術協議会メンバー9名

話題：通信網の信頼性設計・管理について

各論：通信網における信頼性の捉え方～信頼性目標値の発展：規模の関数として信頼性をとらえる～設計の実際～災害時への備え～まとめ～質疑応答（社会インフラ全般への展開の可能性，時代変化への対応・多主体・多品目，水分野での課題：維持管理と海外展開）

第3回 「ソフト社会インフラ-インフラの実課題を吟味する」

日 時：2013年11月18日 14時-16時

会 場：日本大学 経済学部 本館 2F 中会議室 2

話題提供者：高橋信補氏（㈱日立製作所横浜研究所主任研究員）

谷川民生氏（(独)産業技術総合研究所主任研究員）

出席者：話題提供者+横幹連合・横幹技術協議会メンバー12名

話題1：上水道インフラの課題

各論：国内課題：収入減少と施設更新増大への対応。震災対策，省エネルギー化～海外課題：造水・水循環，下水道整備～日立の水ビジネス：インテリジェントウォーターシステム～質疑応答（水固有の問題と都市づくりの問題とがある，一気通貫ビジネスができない日本企業，人口減少社会におけるインフラ作りの指針が必要）

話題2：震災復興地でのインフラ作り，ロボット技術をコミュニティ復活に展開～30年後の子供たちに残すための気仙沼モデル：高齢者50%でも住みよい街，希少な若者が戻って来たい街，スケーラブルインフラ～質疑応答2（スケーラブルインフラをどのように考えるか国内問題への対応，復興へのアプローチ，人口減少地域での復興）

第4回 「人口減少社会のインフラ再編」

日 時：2014年2月19日（水）17時30分～19時30分

会 場：日本大学経済学部7号館7061教室

話題提供者：中川 雅之（日本大学経済学部教授）

出席者：話題提供者+横幹連合・横幹技術協議会メンバー18名

話題概要：近年インフラの老朽化問題が大きく取り上げられるようになってきた。しかしこの問題は、維持管理投資、更新投資を促進させるという対処療法的な対応では、解決ができない本質的な問題を含んでいる。高度成長期、バブル崩壊後に形成された過剰な公共施設・インフラストックと、本格的な人口減少社会、少子高齢社会の到来は、日本の都市の在り方や地方財政制度に大きな課題をつきつける。Public Real Estate Management など地方公共団体で萌芽的にみられ始めている新しい公共施設管理のあり方を紹介するとともに、その理論的な背景について議論を行った。

(B) 2014年度の事業計画

引き続き、知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムを企画・実施する。また、同協議会実行委員会と新たな産業の芽となる共同開発の可能性を模索してゆくため、水インフラを具体的なテーマとして、横幹産学懇談会を企画・実施する。

2-2-5 広報・出版委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長(理事)	矢入 郁子	(上智大学、ヒューマンインターフェース学会)
委員(理事)	木野 泰伸	(筑波大学、プロジェクトマネジメント学会)
委員(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員(理事)	有馬 昌宏	(兵庫県立大学、経営情報学会)
委員(理事)	北村 佳之	(日本銀行、日本統計学会)
委員	武田 博直	(コンサルタント、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	小山 慎哉	(函館工業高等専門学校、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	中田 亨	((独)産業技術総合研究所)
委員	高橋 正人	((独)情報通信研究機構、計測自動制御学会)
委員	河村 隆	(信州大学、日本ロボット学会)

広報・出版委員会では、横幹連合の知名度を高めるための活動を実施してきた。国内向けの活動として、本年度も定期的なニュースレターの発行を行った。また、会員学会の会員に対して横幹連合の活動を周知するために、2012年度に各学会の学会誌等での横幹連合の紹介を依頼した結果、2013年度は実際に掲載された。

1. ニュースレターの発行

広報・出版委員会では、年に4回、定期的にホームページにて、ニュースレターを発行している。コンテンツは、巻頭メッセージ、活動紹介、会員学会の横顔、イベント紹介であり、毎号、内容の濃い話題を他分野の人にも分かりやすく紹介している。

2. 会員学会の学会誌等への紹介文の掲載依頼

会員学会の学会誌等に、横幹連合の活動紹介の記事を掲載いただくよう、各学会へ依頼を進めている。

(B) 2014年度の事業計画

横幹連合では、多くの活動を行っている。それその情報や成果を適切なタイミングで、関係者をはじめ社会に提供することが重要である。広報・出版委員会では、ホームページ、パンフレット、書籍を通じて、その活動を行うことを役割としている。

第5回横幹連合コンファレンスに於いて行われた会長懇談会で、「会員学会年次大会発表の電子化」を提案し、賛同いただいた事を受け、新年度では、会員学会よりデータの提供を受けてホームページにて掲載する予定としている。今後のデータの管理については、委員会で検討してゆく。

新年度も引き続き、現在までの活動を継続し、ニュースレターの発行、和文・英文によるホームページの充実などを行っていく予定である。

1. 広報活動の実施

(1) ニュースレターの発行

(2) 和文・英文ホームページページの更新と充実

(3) 会員学会年次大会発表の電子化

2. パンフレット等による広報の推進

パンフレットを新規に作成し、広報活動に活用する。

3. その他

会員学会の学会誌等への掲載などを通じて、参加学会の会員に対しても、横幹連合の活動が周知されるように取り組む。

2-2-6 会誌編集委員会

(A) 2013年度の事業報告

委員長(理事)	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会/計測自動制御学会)
副委員長(理事)	渚 勝	(千葉大学、国際数理科学協会)
委員(理事)	乾 正知	(成蹊大学、精密工学会)
委員(理事)	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)
委員(理事)	松岡 由幸	(慶應義塾大学、日本デザイン学会)
委員	大野 富彦	(群馬大学、経営情報学会)
委員	加藤 健郎	(東海大学、日本デザイン学会)
委員	金子 勝一	(山梨学院大学、日本経営システム学会)
委員	税所 哲郎	(群馬大学、経営情報学会)
委員	椿 広計	(統計数理研究所、応用統計学会)
委員	滑川 徹	(慶應義塾大学、日本デザイン学会)
委員	奈良 高明	(電気通信大学、日本応用数理学会/計測自動制御学会)
委員	藤井 享	(株日立製作所、日本情報経営学会)
委員	松岡 猛	(宇都宮大学、日本信頼性学会)
委員	三宅 美博	(東京工業大学、計測自動制御学会)

横幹連合の活動記録および会員学会分野における横幹的事例の紹介を中心に、会誌の編集・発行を行った。

1. 会誌第7巻第1号の発行(2013年4月発行)

刊行の言	特別企画「横幹連合:10周年を迎えて」の編集に際して	松岡 由幸
特別企画	「横幹連合:10周年を迎えて」	
特別寄稿	社会の進化を目指して更に広範な活動を期待する 日本再生に向けた横断型基幹科学技術の社会的使命 ～横幹連合の社会实践と更なる発展を期して～ 未来社会づくりを牽引する科学技術イノベーション	桑原 洋 柘植 綾夫
論説	横幹の体幹 「横幹」の概念はいかに生れたか 横幹連合の過去・現在・未来	相澤 益男 吉川 弘之 木村 英紀 出口 光一郎
解説	横幹連合10年の歩み—理念構築から実践へ—	横幹連合10年史 編纂委員会
ミニ特集	「震災克服調査研究—WG報告—」	
	解説 震災克服調査研究 WG-A 報告:生活における社会の強靱性の強化 震災克服調査研究 WG-B 報告:経営の高度化と強靱性の強化	田村 義保 大場 允晶

	震災克服調査研究 WG-C 報告：環境保全とエネルギー供給における 強靱性の強化	安岡 善文
トピック	第4回横幹連合総合シンポジウム開催報告 木村賞の設置と第一回表彰（2012年度）について	山崎 憲 他 安岡 善文
会員学会紹介	日本デザイン学会 日本オペレーションズ・リサーチ学会	青木 弘行 腰塚 武志
編集後記		玉置 久
2. 会誌第7巻第2号の発行（2013年10月発行）		
巻頭言	「死」の意味と「生」の価値—横断型科学技術はどのようにかわるか	遠藤 薫
特別企画	「横幹連合:10周年を迎えて」	
論説	知の統合学 横幹連合の創立前夜	舘 暲 鈴木 久敏
トピック	横幹・温故知新一設立時の新聞記事から—	会誌編集委員会
ミニ特集	「経済物理学とその周辺」	
解説	経済物理学とその周辺 戦略の自動進化および時系列乱数度による価格予測 株式市場に埋め込まれたグループ相関構造—日米比較 経済ネットワークの数理 分布関数による経済メカニズムの解明	田中 美栄子 田中 美栄子 他 家富 洋 他 大西 立顕 水野 貴之
原著論文	サプライチェーンにおける震災の間接被害に関する研究 —精密機器企業の東日本大震災における間接被害実態と対応策の分析—	樋口 邦史 他
論説	遺伝子組み換え食品のリスク・コミュニケーション	渋谷 和彦
会員学会紹介	システム制御情報学会	小島 史男
編集後記		松岡 由幸

(B) 2014年度の事業計画

会誌第8巻第1号「ミニ特集:数理科学の展開とその体制」の発行をはじめ、引き続き会誌の定期発行を行う。加えて、発行に関わる収支構造とあるべき姿について、検討する。

1. 会誌第8巻第1号の発行（2014年4月発行予定）		
巻頭言	“Transdisciplinarity”を巡って	鈴木 久敏
ミニ特集	「数理科学の展開とその体制」	
解説	産業数学の構想と展望 統計数理の誕生とその広がり 産学への応用の状況（仮） 数理科学の産業応用—シミュレーション技術を例として— 数理科学の機能	若山 正人 樋口 知之 川崎 茂 高田 章 椿 広計
トピック	第5回横幹連合コンファレンス開催報告 第2回木村賞表彰（2013年度）について	板倉 宏昭 遠藤 薫
会員学会紹介	日本信頼性学会	太田 周一 他
編集後記		奈良 高明

2. 会誌第8巻第2号の発行（2014年10月発行予定）

2-3 調査研究会の報告及び計画

2-3-1 横断型人材育成推進（終了）

(A) 2013年度の事業報告

設置期間	2012年4月～2014年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
副主査	長田 洋	(東京工業大学、品質管理学会)
幹事	小坂 満隆	(北陸科学技術先端大学院大学、システム情報制御学会)
委員	鈴木 久敏	(筑波大学、日本OR学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	旭岡 勝義	(社会インフラ研究センター、研究・技術計画学会)
	川田 誠一	(産業技術大学院大学、計測自動制御学会)
	古田 和雄	(東京大学、計測自動制御学会)
	藤原 靖彦	(元日産自動車、自動車技術会)
	高津 春雄	(横河電機、計測自動制御学会)
	坂井 佐千穂	(元セイコーエプソン、電子情報通信学会)
	星 千枝	(教育テスト研究センター、学会)
	佐野 昭	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)

本調査研究会では、前身の研究会で実施した、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、具体的な人材育成プログラムの提案、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究を継続するとともに、横断型人材育成を推進するための提言の実施に向けての活動を行う。

1. 人材育成プログラムの調査研究

本年度は研究会開催なし

2. 第5回横幹連合コンファレンスOSの実施

昨年度に引き続き横幹人材養成をテーマとして12月22日（日）にOS「文理融合を含む実践的な横型人材育成」を企画実施した。

オーガナイザ：本多 敏（慶應義塾大学）

川崎茂（日本大学）「政府・国際機関における統計リテラシーの向上」

大場允晶（日本大学）、飯島俊文（Q&T マネジメント研究所）「文理融合の人材育成と体験 ～メーカーにおける個別人材育成計画と文理融合～」

神徳徹雄、東宮昭彦、佐藤稔久、金沢康夫（産業技術総合研究所）「産業技術総合研究所における博士人材育成の取り組み」

川田誠一（産業技術大学院大学）「専門職大学院大学におけるPBL型演習による横断型人材育成」

鎌倉稔成（中央大学）「大学院副専攻制度による横型人材育成」

大西公平（慶應義塾大学）「リーディング大学院における人材育成の取り組み例」

眞田克（高知工科大学）「信頼性工学で解き明かす平家一門の衰退」

3. 研究会活動プランの検討

現在検討中の中長期ビジョンとその実現プランの策定にともない、これまでの横幹としての様々な活動成果を活用して、横幹知活用の教科書、セミナー等の活動も検討中であることを踏まえ、本調査研究会は終了し、次の段階へ進む段階であることを、メール審議により決定した。

表 リスク俯瞰表の一部抜粋

リスク起因(大/中/小カテゴリー別)		
大	中	小
A 外部環境起因リスク	政治経済マクロ環境	経済情勢
		政治情勢
		社会情勢
	金融市場リスク	インフレ、デフレ、地価の変動
		株価の変動
		金利上昇
		為替の変動
	ハザードリスク	自然災害・天災・地震・天候不順、地球温暖化、季節変動
		損害・破壊・犯罪・盗難、異物混入
		テロ・紛争・戦争・革命・内乱・治安悪化
		疫病、新型インフルエンザ等
		公共サービスの麻痺、制限、電力不足、通信障害
業界環境	その他(風評、不買運動、暴力団/反社会勢力、マスコミ報道等)	
	製品/サービスのマーケット環境、顧客ニーズの変化、市況の変動	
	資材高騰、原料輸入阻害、エネルギーコストの増加	
	業界の特性	
	競合、競争激化、競争相手	
	技術革新への対応、標準化競争	
	大株主、ステークホルダーの影響	
B 戦略起因リスク	経営戦略	経営資源(リソース)の配分、ポートフォリオ
		事業再構築、構造改革、M&A、合併、提携、
		新規事業、投資(戦略的投資、設備投資等)
		ビジネスプロセスの有効性・効率性
		コーポレートガバナンス
		社内情報の報告・伝達・コミュニケーション不足
		子会社・関連会社の管理
		製品戦略(競争/商品開発力)
	技術開発、製品開発戦略	特定取引先への依存
		生産方式
	生産戦略、調達・供給戦略	原材料・資材の調達、原材料価格の高騰
		外注(アウトソーシング)管理
		サプライチェーン、物流コストの増加
	マーケティング戦略	ブランド、製品価格、チャネル/販路、流通等
	財務戦略	資本調達(融資条件逼迫)、格付け、財務制限条項
		資金コスト、有利子負債
		配当政策
	組織戦略	資金運用
組織構造の有効性、硬直化		
人事戦略	経営陣、重要な役職員への依存	
	人材開発戦略、人材育成、教育訓練、能力開発	
	人事考課の公平性、人事異動の流動化、給与体系	

(注) 下記資料を参考に取りまとめた。
 ①「経営のためのトータルリスク管理」津森信也ほか編著、中央経済社、2002年2月
 ②「トータルリスクマネジメント」ベリリングポイント戦略・業務改革チーム著、生産性出版、2006年8月
 ③「図解 リスクマネジメント」朝日監査法人著、東洋経済新報社、2001年5月
 ④「内部統制とERM」神林比洋雄著、かんき出版、2008年5月

2-3-2 人工社会調査研究会(終了)

(A) 2013年度の事業報告

設置期間	2012年4月～2014年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
副主査	船橋 誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会/システム制御情報学会)
幹事	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 真吾	(早稲田大学、経営情報学会)
	寺野 隆雄	(東京工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	鳥山 正博	(野村総合研究所、経営情報学会)
	小野 功	(東京工業大学、計測自動制御学会)
	山下 泰央	(中央三井アセット信託銀行、経営情報学会)
	木村 英紀	(理化学研究所、計測自動制御学会)

本調査研究会の目的は、社会を構成するマイクロな要素としての人間・企業・組織と、社会のマイクロな構造を、マルチエージェント技術を用いて人工社会としてモデル化することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行うことにある。2013年度は、科学技術振興機構 CREST 戦略目標「再生可能エネルギーをはじめとした多様なエネルギーの需給の最適化を可能とする、分散協調型エネルギー管理システム構築のための理論、数理モデル及び基盤技術の創出」の下の研究領域「分散協調型エネルギー管理システム構築のための理論及び基盤技術の創出と融合展開」への公募活動を主に実施し、最終選考まで残ったが、残念ながら結果は不採択となった。

1. メカニズムデザインを基盤とした電力需給均衡論の展開

本研究では、電力需給均衡問題を解決する新たな制度設計（メカニズムデザイン）のための理論的基盤を確立することを目的として、調査研究を行った。以下はその概要である。

化石燃料や原子力から太陽光やウィンドファーム等の再生可能エネルギーへのシフトにあたっては、多様なエネルギー源を活用して電力を供給するための分散協調型システムの安定的な運用とともに、社会的厚生を最大化しつつ需給調整を可能とする制度的基盤を確立することが必要である。そこで、具体的には、不確定要因となる時間や天候による発電出力変動特性を動的に把握するモデルを構築し、メカニズムデザイン理論（オークション理論、マッチング理論）を応用して需要と供給の両面に不確実性の存在する状況における需給調整問題の動的均衡を実現する設計アルゴリズムを獲得することを目指す。これにより、電力需給均衡をリアルタイムで更新し、エネルギーシステムのロバスト（頑強）な安定運用を確保することを目指す。最後に、設計したメカニズムがどの程度実用に耐えうるか、あるいは得られた理論的予測が妥当かを検証するために、大規模シミュレーションによる評価・検証を行う。

これらの調査研究の成果を用いて、CREST 研究領域「分散協調型エネルギー管理システム構築のための理論及び基盤技術の創出と融合展開」公募に提案した。

2-3-3 システム統合学調査研究会（継続）

(A) 2013年度の事業報告

設置期間	2013年7月～2015年6月	
幹事学会	社会情報学会	
主査	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
副主査	大久保 寛基	(東京都市大学、日本経営工学会)
幹事	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	兼田 敏之	(名古屋工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	久保田 直行	(首都大学東京、計測自動制御学会)
	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
	櫻井 茂明	(東芝ソリューション(株)、日本知能情報ファジィ学会)
	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
	辻 洋	(大阪府立大学、システム制御情報学会)
	出口 光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
	西田 佳史	(産業技術総合研究所、日本ロボット学会)
	松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)
	水川 真	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)
	六川 修一	(東京大学、日本リモートセンシング学会)

本調査研究会の目的は、横幹連合が課題解決に踏み出すための学術的な基盤を整理することであり、これによって、今後の学術的取組みテーマを明らかにすると同時に、課題解決にむけてアクション・リサーチに取り組んでいる国研、企業等の研究者の拠り所を与えることに寄与することを目指す。このために、システム統合を表明している横幹連合内外の研究者をヒヤリングし、学術的な課題の抽出に努めると同時に、研究者・学会間の連携を図る。また、具体的な状況把握の

ために、横幹技術協議会会員企業が提起する課題に関して意見交換を行う横幹産学懇談会と連携する。

1. 第1回調査研究会（2013年8月20日）

キックオフとして、調査研究内容の審議を行い、方向性を確認した。

2. 第2回調査研究会（2014年3月3日）

①横幹産学懇談会の実施状況の確認と、議論されている事項に関するシステム統合学の見地からの課題について意見交換した。

②科学技術振興機構研究開発戦略センター（JST/CRDS）でのシステム科学技術に関する取組みについて、木村英紀上席フェローから紹介を受けた。さらに、JST/CRDSでの2014年度のシステム科学技術の取組みに関して、本調査研究会のメンバーの参画提案があり基本的にこれを了承した。

3. 横幹産学懇談会状況

本調査研究会が扱う研究の具体例については、別途、設置している横幹産学懇談会で議論している。本年度は、「ソフト社会インフラ」をテーマとして、水システムの海外展開、国内における水システムの維持管理・震災対策、復興地におけるインフラシステムの課題、人口減少時代のインフラシステムの考え方等について4回の議論の場を持った（詳細は、産学連携委員会の事業報告に記載）。

(B) 2014年度の事業計画

1. 学術的な基盤整理と課題抽出

ヒヤリングを通じて、システム統合学の体系を検討する。一方、横幹産学懇談会を通じて実問題を検討し、学術的に取り組む課題の抽出に努める。

2. JST/CRDSでのシステム科学技術への取組みとの連携

JST/CRDSでのシステム科学技術への取組みと連携し、学術的な基盤整理と課題抽出に資する。

3. 第3号議案：2013年度収支決算報告および2014年度予算案

2013(平成25)年度 横幹連合 収支計算書

2013.4.1～2014.3.31

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	2,090,000	2,070,000	20,000	99.0%	全入
2. 民間補助金	0	0	0		
3. 繰越金	1,866,831	1,866,831	0	100.0%	
4. 事業収入	9,000,000	3,532,335	5,467,665	39.2%	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	0.0%	
プロジェクト	0	0	0		
コンファレンス	2,200,000	2,884,000	▲ 684,000	131.1%	
会誌	300,000	496,225	▲ 196,225	165.4%	
その他	0	152,110	▲ 152,110		
5. 繰入金収入	270,000	264,100	5,900	97.8%	木村賞基金繰入
6. 雑収入	80,000	72,606	7,394	90.8%	木村賞基金利息分120円
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
収入合計 (A)	13,306,831	7,805,872	5,500,959	58.7%	

支出の部

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	180,000	232,691	▲ 52,691	129.3%	
1.2 印刷製本費	50,000	0	50,000	0.0%	
1.3 通信運搬費	180,000	127,212	52,788	70.7%	
1.4 旅費交通費	180,000	151,745	28,255	84.3%	
1.5 人件費	2,600,000	748,334	1,851,666	28.8%	事業費振替分736,762円
1.6 消耗品・備品費	20,000	13,046	6,954	65.2%	
1.7 租税公課	5,000	0	5,000	0.0%	
1.8 雑費	10,000	8,142	1,858	81.4%	
小計	3,225,000	1,281,170	1,943,830	39.7%	
2. 事業費					
2.1 コンファレンス・シンポジウム	1,800,000	2,492,475	▲ 692,475	138.5%	事務局人件費620,961円
2.2 技術シンポジウム	0	0	0		
2.3 横幹技術フォーラム	0	0	0		
2.4 委員会 各5万円	60,000	0	60,000	0.0%	
2.5 調査研究会 各7.5万円	225,000	19,735	205,265	8.8%	
2.6 受託事業	5,000,000	0	5,000,000	0.0%	
2.7 課題解決プロジェクト	0	0	0		
2.8 プロジェクト請負活動	0	0	0		
2.9 広報費	70,000	44,235	25,765	63.2%	
2.10 会誌「横幹」	1,100,000	1,518,841	▲ 418,841	138.1%	事務局人件費115,801円
2.11 木村賞	270,000	264,220	5,780	97.9%	
2.12 その他	0	0	0		
小計	8,525,000	4,339,506	4,185,494		
3. 予備費					
3.1 予備費	1,556,831	0	1,556,831	0.0%	
小計	1,556,831	0	1,556,831	0.0%	
支出合計 (B)	13,306,831	5,620,676	7,686,155	42.2%	
収支差額 (A - B)	0	2,185,196			

2013(平成25)年度 横幹連合 貸借対照表			
2014年3月31日現在			
			(単位:円)
科 目		金 額	
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	16,530		
預 金	2,218,917		
未 収 金	0		
立 替 金	681		
仮 払 金	0		
流動資産合計		2,236,128	
2. 固定資産			
什器備品	0		
木村賞基金	735,900		
基 金	1,000,000		
固定資産合計		1,735,900	
資産合計			3,972,028
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	2,806		
預 り 金	10,126		
借 入 金	0		
前 受 金	38,000		
内部仮受け金			
引 当 金	0		
流動負債合計		50,932	
2. 固定負債		0	
負債合計			50,932
III. 正味財産の部			
正味財産			3,921,096
負債および正味財産合計			3,972,028

2013 年度横幹連合会計 利益処分案

(単位:円)

2013 年度収支差額	¥2,185,196
-------------	------------

利益処分案

2014 年度会計への繰越

¥2,185,196

以上

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の 2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。木村賞基金につきましても、正しく管理されていることを証します。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

2014 年 4 月 21 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事

印

(田村 義保)

監事

印

(安岡 善文)

2014(平成26)年度横幹連合予算

(単位：円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,020,000	2,070,000	▲ 50,000	
2. 民間補助金			0	
3. 繰越金	2,185,196	1,866,831	318,365	
4. 事業収入	7,910,000	3,532,335	4,377,665	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	国家プロジェクト等
プロジェクト		0	0	協議会プロジェクト
コンファレンス・シンポジウム	1,000,000	2,884,000	▲ 1,884,000	協議会協賛含む
会誌	400,000	496,225	▲ 96,225	協議会広告含む
その他	10,000	152,110	▲ 142,110	
5. 繰入収入	150,000	264,100	▲ 114,100	木村賞(原型作成済)
6. 雑収入	80,000	72,606	7,394	総会懇親会費等
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計 (A)	12,345,196	7,805,872	4,539,324	
支出の部				
1. 管理費				
1. 1 会議費	180,000	232,691	▲ 52,691	総会会場費等
1. 2 印刷製本費	50,000	0	50,000	
1. 3 通信運搬費	180,000	127,212	52,788	
1. 4 旅費交通費	160,000	151,745	8,255	
1. 5 人件費	860,000	748,334	111,666	節減
1. 6 消耗品費・備品費	20,000	13,046	6,954	
1. 7 租税公課	5,000	0	5,000	印紙代等
1. 8 雑費	10,000	8,142	1,858	
小計 (k)	1,465,000	1,281,170	183,830	
2. 事業費				
2. 1 コンファレンス・シンポジウム	1,440,000	2,492,475	▲ 1,052,475	人件費740,000円
2. 2 技術シンポジウム	0		0	
2. 3 横幹技術フォーラム	0	0	0	
2. 4 委員会 各2万円	60,000	0	60,000	企画・産学・学術
2. 5 調査研究	225,000	19,735	205,265	75,000/研究会
2. 6 受託事業	6,500,000	0	6,500,000	
2. 7 課題解決プロジェクト		0	0	
2. 8 プロジェクト請負活動		0	0	
2. 9 広報費	70,000	44,235	25,765	
2. 10 会誌「横幹」	1,120,000	1,518,841	▲ 398,841	人件費120,000円
2. 11 木村賞	150,000	264,220		
2. 12 その他	0	0	0	
小計 (j)	9,565,000	4,339,506	5,225,494	
3. 予備費			0	
3. 1 予備費	1,315,196	0	1,315,196	
小計 (y)	1,315,196	0	1,315,196	
支出合計 (B = k + j + y)	12,345,196	5,620,676	6,724,520	
収支差額 (A - B)	0	2,185,196	▲ 2,185,196	